

学習内容と到達目標

- ☞ ①生活圏にある建物や場所の名前を覚える。
- ②目的の場所の位置を尋ねられるようになる。

指導のポイント

- 1. VOCABULARY** ここである程度語彙を定着させておく。予習が不十分で、語彙の定着も不十分と判断した時は、例えば、②で CD を聞いて答えを確認した後に、学生同士で「これは何ですか」「それは喫茶店です」のように練習させ、定着を図る。
- 3. SPEAKING** 次のページにある [4. LISTENING] と [5. PAIR WORK] の下準備。教師が「公園はどこですか」と尋ね、学習者に答えさせる。
- 4. LISTENING** 会話を聞いて場所が特定できれば OK。
- 5. PAIR WORK** このペアワークは地図を見て話しているという設定。話者が地図上のどこかにいて、通りすがりの人に道を聞いているという設定で練習するのは [7. PAIR WORK] (学生 B用の情報カードは巻末の 266 ページに)。
- 6. VOCABULARY** ②では会話を聞いて場所が特定できれば OK。③のスク립トは答えの確認と同時に次の [7. PAIR WORK] のモデルとして使用する。
- 7. PAIR WORK** 地図の右端に話者がいることに注意 (それを確認しておかないと、「～の先」や「～の手前」などの表現が使えない)。また、通りすがりの人に道を聞くという設定なので、いきなり「～はどこですか」と聞くのではなく、「あう、すみません」のような切出しの表現を教え、ここで練習させる。(学生 B用の情報カードは巻末の 267 ページに)。

活動例

① **住んでいる町の地図を作ろう**

- ☞ 学生が住んでいる学生寮やアパート周辺の地図を描かせる。白紙の紙に手書きの地図を描かせてもいいし、範囲が広い時は、Yahoo!や Google のポータルサイトからプリントアウトした地図に書き込ませる形でもよい。地図が出来上がったら、学習した表現を使って説明させる。[3. SPEAKING] または [5. PAIR WORK] が終わった後で実施。

注. 国際コースの学生は皆キャンパスから目と鼻の先にある学生寮に住んでおり、しかも大学周辺はまだほとんど開発が進んでいないため (民家はあるものの、店はほとんどない)、我々のコースでは実施できなかった。

②キャンパス探検

☞ 教師が事前に学内の写真を十数枚とっておく。授業ではその写真を一覧にしたものをプリントアウトして渡し、その写真が撮られたのと同じ場所に行き、同じアングルで写真を撮ってくる（携帯電話のカメラ機能を使用）。自分たちで見つけれない時は、キャンパス内を歩いている日本人学生に「これはどこですか」と聞くように指示。

反省点：我々の作った課題が思いのほか簡単だったらしく、日本人学生に聞くまでもなく、ほとんど全てを自分たちで見つけてしまった。そのため、九大のキャンパスを知るという目的は果たせたものの、日本語の練習にはならなかった（来年度は課題をもう少し難しくする予定）

授業で使えるリソース

☞ 現時点では特になし（今後見つければ、書き加える予定）